

- 11) 鈴木昭：第57回新潟県民福祉大会第1研究集会「住民参加による地域福祉活動を進めるために－安心して暮らせる福祉のまちづくりを考える－」コーディネーター。湯沢町，2007.10.25.
- 12) 鈴木昭：新潟県教育センター平成19年度 教職12年経験者研修（小・中・高・特），「社会貢献活動体験研修の意義」。2007，11.20，11.21，11.22.
- 13) 鈴木昭：新潟市民生委員・児童委員委嘱状伝達及び感謝状贈呈式記念講演，「子どもの力・地域の力」。2007.12.3.
- 14) 鈴木昭：新潟県長岡地域振興局健康福祉環境部児童虐待死亡事例検討会助言者 2007.12.21，2008.2.4.
- 15) 鈴木昭：柏崎市主任児童委員研修会ワークショップ，「親子を見守る地域の力」。2008.2.5.
- 16) 鈴木昭，高橋英樹，小池由佳：新潟県知の財産活用事業「総合的な地域見守りネットワーク体制の構築」，市町村職員ワークショップ，「児童家庭相談の現況・課題とその改善」。2008.2.22.
- 17) 鈴木昭：新潟県出合いの場・子育て支援検討懇談会（座長），「新潟県出合いの場・子育て支援検討懇談会報告書」。2008.3.19.
- 18) 隅田好美，石川祐子：難病相談支援センター研修事業 ピアカウンセリング研修（入門），同じ難病経験者だからできること－ピアカウンセラー－，新潟，2007年9月8日，15日
- 19) 隅田好美，石川裕子：新潟大学歯学部公開講座 介護予防のための『口腔機能の向上』入門講座，『口腔清掃介助の実際』2007年7月10日。
- 20) 八木 稔：むし歯予防のためのフッ化物洗口の有効性と安全性（新潟県，新潟県教育委員会，新潟県歯科医師会，新潟県歯科保健協会）：フッ化物洗口マニュアル，8-13頁，文京企画，新潟，2007年。
- 21) 八木 稔：保育・教育施設における円滑な歯科保健の実施について，新潟県佐渡地域振興局健康福祉環境部主催地域歯科保健研修会，佐渡市，2007年7月2日。
- 22) 八木 稔：フッ素洗口の効果と安全性，阿賀野市主催歯科保健合同研修会，阿賀野市，2007年8月22日。
- 23) 八木 稔：学校保健におけるむし歯予防とフッ化物応用について，フッ化物洗口説明会および講演会（水原小学校），阿賀野市，2007年，2月20日。
- 24) 八木 稔：学校保健におけるむし歯予防とフッ化物応用について，フッ化物洗口説明会および講演会（安野小学校），阿賀野市，2007年2月28日。
- 25) 八木 稔：歯科保健における予防を再考する，新潟市歯科医師会園・学校歯科保健担当研修会，新潟市，2007年3月6日。
- 26) 石川裕子：ピアカウンセリング（入門） 悩みをわ

からあうために－カウンセリング方法（入門）。新潟県難病相談支援センターピアカウンセリング研修会，新発田・小千谷，2007年3月8日，2007年3月15日

- 27) 柴田佐都子：「正しいPMTCの方法」。平成19年度歯科臨床研修医セミナー，新潟大学医歯学総合病院歯科，2008年2月6日。

## 歯科総合診療部

### 【論文】

1. Masayoshi Nakadate, Norio Amiduka, Minqi Li, Paulo H.L. Freitas, Kimimitsu Oda, Shuichi Nomura, Katsumi Uoshima and Takeyasu Maeda : Histological Evaluation on Bone Regeneration of Dental Implant Placement Sites Grafted with a Self-Setting  $\alpha$ -Tricalcium Phosphate Cement. *Microscopy Research and Technique*, 71: 93-104, 2008.
2. E. Corbet, J. Akinwade, R. Duggal, G. Gebreegziabher, H. Hirvikangas, D. Hysi, L. Katrova, T. Karaharju-Suvanto, C. McGrath, K. Ono, M. Radnai, E. Schwarz, J. Scott, J.-L. Sixou, U. Soboleva, K. Uoshima, K. Yaneva-Ribagina and C. Fox : Staff recruitment, development and global mobility. *Eur J Dent Educ*, 12 (Suppl. 1) : 149-160, 2008.
3. Hamada N, Watanabe K, Tahara T, Nakazawa K, Shibata Y, Ishida I, Kobayashi T, Yoshie H, Abiko Y, Umemoto T: The r40-kDa OMP human monoclonal antibody protects against *Porphyromonas gingivalis*-induced bone loss in rat. *J Periodontol*, 78(5): 933-939, 2007.
4. Yamamoto K, Kobayashi T, Sugita N, Tai H, Yoshie H: The Fc RIIa polymorphism influences production of interleukin-1 by mononuclear cells. *Int J Immunogenet*, 34: 369-372, 2007.
5. Kobayashi T, Ito S, Kuroda T, Yamamoto K, Sugita N, Narita I, Sumida T, Gejyo F, Yoshie H: The interleukin-1 and Fc $\gamma$  receptor gene polymorphisms in Japanese patients with rheumatoid arthritis and periodontitis. *J Periodontol*, 78(12): 2311-2318, 2007.
6. Kubota T, Itagaki M, Hoshino C, Nagata M, Morozumi T, Kobayashi T, Takagi R, Yoshie H: Altered gene expression levels of matrix metalloproteinases and their inhibitors in periodontitis-affected gingival tissue. *J Periodontol*, 79(1): 166-173, 2008.

- Honma Y, Sugita N, Kobayashi T, Abiko Y, Yoshie H: Lower antibody response to Porphyromonas gingivalis associated with Fc RIIb polymorphism. *J Periodont Res*, 2008 in press.
- Komatsu Y, Galicia JC, Kobayashi T, Yamazaki K, Yoshie H: Association of IL-1RN +2018 gene polymorphism with Japanese chronic periodontitis patients using a novel genotyping method. *Int J Immunogenet*, 2008 in press.
- Nakajima T, Amanuma R, Ueki-Maruyama K, Oda T, Honda T, Ito H, Yamazaki K: CXCL13 expression and follicular dendritic cells in relation to B-cell infiltration in periodontal disease tissues. *J Periodont Res*, 2008 in press.

#### 【著書】

- 小林哲夫, 吉江弘正: 歯周炎と遺伝子 (鴨井久一・花田信弘・佐藤 勉・野村義明編). *Preventive Periodontology*, 161-164 頁, 医歯薬出版, 東京, 2007.
- 小林哲夫, 近藤一郎, 若林裕之, 山内恒治, 高瀬光徳, 吉江弘正: 歯周炎患者へのラクトフェリン経口投与による臨床, 細菌, 生化学的变化 (津田洋幸・島崎敬一, 田中克明 編), *ラクトフェリン 2007: ラクトフェリン研究の新たな展望と応用へのメッセージ*. 200-204 頁, 日本医学館, 東京, 2007.
- 渡邊清志 (分筆): 歯科技工辞典, 第1版, 第16刷, 医歯薬, 東京, 2007.

#### 【商業誌】

- 魚島勝美, 荒井良明, 藤井規孝, 吉田恵子, 木村修平: 生体本位の実践・咬合技工 ラボサイドで生きる! 咬合理論と咬合器操作 3. インプラント (1) シングルスタンディング. 歯科技工 (別冊), 2007.
- 魚島勝美, 星名秀行, 青柳貴之, 吉田恵子: インプラント骨増成の現在と近未来を探る. *ザ・クインテッセンス*, 26 (9): 131-138 頁, 2007.
- 渡邊清志: 『特別企画』コンプリートデンチャーの維持安定を高める咬合理論と技工 (前編) 《片側性および両側性咬合平衡に基づく人工歯排列と咬合様式の選択基準》, 歯科技工, 第35巻, 第8号, 979-1001 頁, 医歯薬, 東京, 2007.
- 渡邊清志: 『特別企画』コンプリートデンチャーの維持安定を高める咬合理論と技工 (後編) 《片側性および両側性咬合平衡に基づく人工歯排列と咬合様式の選択基準》, 歯科技工, 第35巻, 第9号, 1157-1171 頁, 医歯薬, 東京, 2007.

#### 【講演・シンポジウム】

- 魚島勝美: 最近の歯学教育事情とこれからの補綴. 新潟大学歯学部口腔外科・歯科麻酔科同門会, 新潟, 2007年6月30日
- 魚島勝美: 新潟大学歯学部における新しい模型実習の試み. 平成19年度特色ある大学教育支援プログラム新潟大学シンポジウム, 新潟, 2007年11月23日
- 魚島勝美: 最近の歯学教育事情とインプラント. 佐久歯科医師会講演会, 佐久, 2007年11月24日
- 魚島勝美: インプラント治療の現状と展望. 東京医科歯科大学同窓会新潟県支部講演会, 新潟, 2007年12月15日
- 石崎裕子: 最近の歯科大学で学ぶ臨床のスタンダード. 山形県鶴岡地区歯科医師会学術講演会, 鶴岡, 2007年8月4日
- 渡邊清志: 全部床義歯における咬合理論と技工術式～フルバランスドオクルージョン及び両側性咬合平衡型リングライズドオクルージョンの臼歯部人工歯排列の理論と技工術式～. 明倫短期大学, 新潟, 2007年11月

#### 【学会発表】

- Katsumi Uoshima, Yoshiaki Arai, Hideyuki Hoshina, Takayuki Aoyanagi, Keiko Yoshida, Noritaka Fujii, Takeyasu Maeda: Comparison of major implant systems applied to the anterior regions of Japanese patients. The fourth international dental collaboration of the Mekong river region congress, Bangkok, 2007.11.20
- Yamamoto K, Kobayashi T, Yamagata A, Oofusa K, Yoshie H: Analysis of proteins associated with susceptibility with periodontal disease. The 42nd Annual Meeting of the Continental European and Israeli Divisions of IADR. Greece, September 26-29, 2007.
- Sugita N, Shimada Y, Kobayashi T, Abiko Y, Yoshie H: Preterm birth with chorioamnionitis and antibody response against Porphyromonas gingivalis. The 42nd Annual Meeting of the Continental European and Israeli Divisions of IADR. Greece, September 26-29, 2007.
- Wakabayashi H, Kondo I, Kobayashi T, Yamauchi K, Yaeshima T, Iwatsuki K, Yoshie H: Antimicrobial activity of lactoferrin against periodontal pathogens and its application to periodontitis patients. VIIth International Conference on Lactoferrin. Nice, France, October 21-25, 2007.
- Kobayashi T, Ito S, Kuroda T, Yamamoto K,

- Sugita N, Narita I, Sumida T, Gejyo F, Yoshie H: Functional gene polymorphisms in rheumatoid arthritis and periodontitis. The 93<sup>rd</sup>. Annual Meeting of the American Academy of Periodontology. Washington DC, October 29, 2007.
6. Nakajima T, Amanuma R, Ueki-Maruyama K, Oda T, Honda T, Ito H, Yamazaki K: CXCL13 expression in B-cell dominant periodontitis lesions. 第 55 回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 総会・学術大会, 横浜市鶴見区, 2007 年 11 月 17 日, Program and abstracts of papers p77, 2007
  7. 飯田明彦, 西川敦, 堀井信哉, 高木律男, 小野由起子, 佐藤秀樹, 長谷川真弓, 齊藤力, 小林哲夫, 魚島勝美: 歯科医師臨床研修必修化に伴う病棟研修の充実に向けて. 平成 19 年度新潟歯学会第 1 回例会, 新潟, 2007 年 7 月 14 日, 新潟歯学会雑誌, 37 (2), 70 頁, 2007 年.
  8. 野澤恩美, 石坂淳子, 塩生有希, 長澤麻沙子, 八木稔, ロクサーナステガロユ, 星野悦郎, 魚島勝美: 新潟大学医歯学総合病院歯科総合診療部における歯科用ユニットの汚染調査. 平成 19 年度新潟歯学会第 1 回例会, 新潟, 2007 年 7 月 14 日, 新潟歯学会雑誌, 37 (2), 75 頁, 2007 年.
  9. 羽下麻衣子, 藤井規孝, 野澤 - 井上佳代子, 野村修一, 魚島勝美, 前田健康: ラット上顎骨に植立したチタンインプラント周囲骨組織の長期的変化. 平成 19 年度新潟歯学会第 1 回例会, 新潟, 2007 年 7 月 14 日, 新潟歯学会雑誌, 37 (2), 78 頁, 2007 年.
  10. 羽下麻衣子, 藤井規孝, 野澤 - 井上佳世子, 魚島勝美, 野村修一, 前田健康: ラット上顎骨に植立したチタンインプラント周囲骨組織の長期的変化. 第 49 回歯科基礎医学会学術大会, 札幌, 2007 年 8 月 30 日
  11. 吉田恵子, 魚島勝美, 野村修一, 前田健康: 骨基質への熱刺激による骨形成阻害の検索. 第 116 回日本補綴歯科学会学術大会. 神戸, 2007 年 5 月 19 日
  12. 小野和宏, 魚島勝美, 林孝文, 齋藤功, 八木稔, 大内章嗣, 興地隆史, 前田健康: 新潟大学新歯学教育課程の教育効果 - 生涯学習能力に関する学生の事項評価結果について -. 第 26 回日本歯科医学教育学会学術大会, 岐阜, 2007 年 7 月 6 日
  13. 魚島勝美, 田中みか子, 小田陽平, 庭野和明, 渡邊清志, 飛田滋, 岡田直人, 長澤麻沙子, 吉田恵子, 小野和宏, 前田健康: 新潟大学歯学部における総合模型実習 3 年間の経験. 第 26 回日本歯科医学教育学会学術大会, 岐阜, 2007 年 7 月 6 日
  14. 魚島勝美, 小林哲夫, 藤井規孝, 中島貴子, 石崎裕子, 齋藤 力: 新潟大学医歯学総合病院歯科総合診療部の役割. 第 26 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会岐阜, 2007 年 7 月 6 日 日本歯科医学教育学会雑誌プログラム・抄録集: 91 頁, 2007 年
  15. 杉田典子, 島田靖子, 花岡潤一郎, 小林哲夫, 安孫子宜光, 吉江弘正: 母体血清中の抗 *Porphyromonas gingivalis* 抗体価, TNF-, CRP 濃度と早産の関連性. 第 50 回春季日本歯周病学会学術大会, 横須賀, 2007 年 5 月 18 日 日本歯周病学会会誌 第 49 巻春季特別号: 116 頁, 2007 年
  16. 浜田信城, 渡辺清子, 柴田恭子, 小林哲夫, 田原知幸, 吉江弘正, 安孫子宜光, 梅本俊夫: *P. gingivalis* 接種ラット歯周炎モデルにおける抗 r40-kDa OMP ヒト型抗体による歯槽骨吸収の抑制. 第 50 回春季日本歯周病学会学術大会, 横須賀, 2007 年 5 月 18 日 日本歯周病学会会誌 第 49 巻春季特別号: 119 頁, 2007 年
  17. 小林哲夫, 魚島勝美, 石崎裕子, 藤井規孝, 中島貴子, 宮崎秀夫: 歯科医師臨床研修への保健所研修の導入. 第 26 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 岐阜, 2007 年 7 月 7 日 日本歯科医学教育学会雑誌プログラム・抄録集: 110 頁, 2007 年
  18. 長島 正, 野首孝嗣, 佐々木好幸, 俣木志朗, 河野文昭, 藤井哲則, 小林哲夫, 木内貴弘: オンライン歯科臨床研修評価システム (DEBUT) の開発. 第 26 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 岐阜, 2007 年 7 月 6 日 日本歯科医学教育学会雑誌プログラム・抄録集: 67 頁, 2007 年
  19. 本間祐子, 杉田典子, 小林哲夫, 吉江弘正: Fcy RIIB 遺伝子型と *Porphyromonas gingivalis* に対する抗体産生調節との関連性. 平成 19 年度新潟歯学会第 1 回例会, 新潟, 2007 年 7 月 14 日 新潟歯学会雑誌 第 37 巻第 2 号: 238 頁, 2007 年
  20. 小松康高, 島田靖子, 鈴木育世, 小林哲夫, 吉江弘正: 血清中の可溶性 IL-6 レセプターと慢性歯周炎の関連性について. 第 50 回秋季日本歯周病学会学術大会, 東京, 2007 年 9 月 21 日 日本歯周病学会会誌 第 49 巻秋季特別号 166 頁, 2007 年
  21. 石崎裕子, 福島正義: 健全歯列における臼歯隣接面の磨耗量について: 日本歯科保存学会 2007 年度春季学会 (第 126 回), 大宮, 2007-6-7 ~ 8, 日本歯保存誌 50 (春季特別号), 79 頁, 2007 年
  22. 渡邊清志, 福島正義: 変色歯に対するポーセレンラミネートベニア修復法の経年的観察からの評価. 第 29 回日本歯科技工学会学術大会, 2007 年 9 月 23 日, 仙台市民会館, 仙台市.
- 【その他】
1. 小林哲夫: 平成 16 ~ 18 年度日本学術振興会科学研究

- 究費補助金. 基盤研究 (A)「日本人歯周病患者の遺伝子多型に基づく感受性検査および診断の確立」(代表: 永田俊彦徳島大学歯学部教授) 班会議報告, 横須賀, 2007年5月19日
2. 小林哲夫: 歯周炎の遺伝子診断. 平成19年度第2回日本歯科大学大学院生命歯学研究科セミナー, 東京, 2007年6月14日
  3. 小林哲夫, 魚島勝美, 藤井規孝, 中島貴子, 石崎裕子, 渡邊清志: 平成19年度歯科医師臨床研修症例報告集第8号. 新潟大学歯学総合病院, 新潟, 2008年3月28日
  4. 渡邊清志: 歯科技工概論「全部床義歯の臼歯部人工歯排列(理論編) - Full Balanced Occlusion & Lingualized Occlusion について -」. 東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校, 東京都, 2007年7月.
  5. 渡邊清志: 口腔解剖学「歯形彫刻の講義及び実習」. 富山県歯科総合学院歯科技工士科, 富山県, 2007年11月.
  6. 渡邊清志: 歯科技工概論「全部床義歯の臼歯部人工歯排列(実技編) - Full Balanced Occlusion & Lingualized Occlusion について -」. 東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校, 東京都, 2008年1月.
  - 4) Kubota T, Itagaki M, Hoshino C, Nagata M, Morozumi T, Kobayashi T, Takagi R, Yoshie H: Altered gene expression levels of matrix metalloproteinases and their inhibitors in periodontitis-affected gingival tissue. *J. Periodontol.* 2007, in press.
  - 5) Nakadate M, Amizuka N, Li M, Freitas PH, Oda K, Nomura S, Uoshima K, Maeda T: Histological Evaluation on Bone Regeneration of Dental Implant Placement Sites Grafted with a Self-Setting  $\alpha$ -Tricalcium Phosphate Cement. *Microscopy Research and Technique*, 71:93-104, 2008.
  - 6) Corbet E, Akinwade J, Duggal R, Gebregziabher G, Hirvikangas H, Hysi D, Katrova L, Karaharju-Suvanto T, McGrath C, Ono K, Radnai M, Schwarz E, Scott J, Sixou JL, Soboleva U, Uoshima K, Yaneva-Ribagina K, Fox C: Staff recruitment, development and global mobility. *Eur J Dent Educ*, 12 (Suppl. 1): 149-160, 2008.
  - 7) Chikazu D, Tomizuka K, Ogasawara T, Saijyo H, Koizumi T, Mori Y, Yonehara Y, Susami T, Takato T: Cyclooxygenase-2 activity is essential for the osseointegration of dental implants. *Int J Oral Maxillofac Surg*, 36: 441-446, 2007.
  - 8) Ohdaira F, Nakamura K, Nakayama H, Satoh M, Ohdaira T, Nakamata M, Kohno M, Iwashima A, Onda A, Kobayashi Y, Fujimori K, Kiguchi T, Izumi S, Kobayashi T, Shinoda H, Takahashi S, Gejyo F, Yamamoto M: Demographic characteristics of 3,659 Japanese patients with obstructive sleep apnea-hypopnea syndrome diagnosed by full polysomnography: associations with apnea-hypopnea index. *Sleep and Breathing*, 11:93-101, 2007.
  - 9) Izumi N, Yoshizawa M, Ono Y, Kobayashi T, Hamamoto Y, Saito C: Periodontal regeneration of transplanted rat teeth subcutaneously after cryopreservation. *Int. J. Oral Maxillofac Surg*, 36: 838-844, 2007.
  - 10) 寺田員人, 朝日藤寿一, 小野和宏, 八木 稔, 吉羽邦彦, 小林正治, 飯田明彦, 櫻井直樹, 竹石英之, 毛利 環, 松山順子, 田中 礼, 瀬尾憲司, 寺尾恵美子, 知野優子, 吉岡節子, 大内章嗣, 北村絵里子, 齋藤功, 齊藤 力, 児玉 泰光, 高木 律男, かずきれいこ: 新潟大学歯学総合病院(歯科)における口蓋裂診療班の活動について. *日本口蓋裂学会雑誌*, 32: 46-56, 2007.

## インプラント治療部

### 【論文】

- 1) Nishizawa R, Nagata M, Kitamura N, Fujita H, Hoshina H, Arhab N, Kubota T, Itagaki M, Shingaki S, Ohnishi M, Kurita H, Katsura K, Saito C, Yoshie H, Takagi R: The 2G allele of promoter region of Matrix metalloproteinase-1 as an essential pre-condition for the early onset of oral squamous cell carcinoma. *BMC Cancer* 7:187, 2007, in press.
- 2) Kurokawa A, Nagata M, Kitamura N, Arhab N, Ohnishi M, Ohyama T, Kobayashi T, Shingaki S, Takagi R, for Oral and maxillofacial pathology and surgery group: Fujita H, Kurita H, Saito C, Hoshina H, Saku T: Diagnostic value of ITGA3, ITGB4 and ITGB5 expression levels for the clinical outcome of tongue squamous cell carcinoma. *Cancer* (in press)
- 3) Fujita H, Kobayashi T, Tai H, Nagata M, Hoshina H, Nishizawa R, Takagi R, Yoshie H: Assessment of 14 functional gene polymorphisms in Japanese patients with oral lichen planus. *Int J Oral Maxillofac Surg*, 2007, submitted.